

2020年度通常（第1回）理事会議事録

日 時： 2020年6月27日（土） 15：00～16：30

場 所： 夢の島マリーナ会議室2階会議室およびZOOMを使用したオンライン会議

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、中川千鶴子、桑原啓三、中澤信夫、川北達也、大村雅一、富田三和子、望月宣武、平松隆、中村和哉、永井真美、中村隆夫、尾形依子、中野佐多子、橘田佳音利、関一人、高間信行、長塚奉司、高橋祐司、中島量敏、加賀谷賢二、森田豊三、黒川重男、磯部君江、吉留容子、菊池邦仁、新田肇、岩瀬喜貞、安田大助、宇都光伸

以上30名

出席監事：児玉萬平、紙谷雅子、上野保

以上3名

オブザーバー：安藤淳総務委員長、増田開ルール委員長、山川医事・科学委員長、棚橋ドーピング裁定委員長、古屋レースマネジメント委員、坂谷参与

議事の経過及び結果

新型コロナウイルス感染症対応のためオンライン会議システムZOOMを使用し開催した。出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わることを確認し、適時的確な意見表明がお互いに来る仕組みになっていることを参加理事に確認していただき、議案の審議を下記のとおり開催した。

（定足数の確認）

理事32名中、出席者30名により、定款34条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款33条に基づいて、河野博文会長が議長となり、2020年度通常（第1回）理事会の開会を宣言し、議事進行を川北達也専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、中村和哉、安田大助の両理事が任命された。

河野会長から、新任理事各位におかれましては、しかるべき分野で積極的な関与を期待します。その他、重要な案件につき、審議いただきたいとの挨拶があった。

<審議事項>

1) 2020-2021年度会長・副会長・専務理事・常務理事の選任

河野会長から資料に基づき、2020-2021年度会長・副会長・専務理事・常務理事の選

任について説明があった。

定款第 22 条 2 項に基づいて、会長は、河野博文（再任）、副会長は、中川千鶴子（再任）、桑原啓三（再任）、馬場益弘（再任）、中澤信夫（再任）の 4 名、専務理事は、川北達也（再任）、常務理事は、大村雅一（新任）、富田三和子（再任）の 2 名とした。定款第 21 条 2 項に基づいて、会長を一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とし、副会長、専務理事及び常務理事を業務執行理事とする。また、経理規程第 6 条に基づく会計担当理事に中村隆夫（新任）としたとの発言があった。

満場一致で承認された。

2) 2020-2021 年度顧問・参与・委員長・最高審判委員会・評議員選定委員について

川北専務から資料に基づき、2020-2021 年度顧問・参与・委員長・最高審判委員会・評議員選定委員について説明があった。

2020-2021 年度顧問は、戸田邦司、秋山雄治、森山雄一、植松眞の 4 名（敬称略）、参与は、大谷たかを、鈴木保夫、坂谷定生、小山泰彦、斎藤渉の 5 名（敬称略）とする。定款第 28 条に基づき、理事会の同意を得て、会長が委嘱する。

各委員会委員長は、安藤淳総務委員長、松田財政委員長、安藤正雄事業開発委員長、柳澤康信広報委員長、環境委員長（未定）、富田三和子レディース委員長、関一人アスリート委員長、増田開ルール委員長、大庭秀夫レースマネジメント委員長、中村和哉 ODC 計測委員長、望月国際委員長、山川雅之医事・科学委員長、棚橋善克ドーピング裁定委員長、川北達也普及指導委員長、黒川重男国体委員長、斎藤渉オリンピック強化委員長、中村公俊ジュニアユース・アカデミー委員長、金子純代キールボート強化委員長、河野博文オリンピック・パラリンピック準備委員長、馬場益弘外洋常任委員長、八木達郎外洋計測委員長、大坪明外洋安全委員長、植松眞アメリカズカップ委員長、高間信行障がい者セーリング推進委員長、服部好彦ジャパンカップ委員長とする。定款 38 条に基づき、理事会の同意を得て会長が委嘱する。

最高審判委員会委員は、篠田陽史、大谷たかお、前田彰一、棚橋善克、柴沼克己、秋元和子、川北達也の 7 名（敬称略）とする。定款第 41 条に基づき、会長が委嘱する。

評議員選定委員会委員の杉山評議員が評議員任期満了に伴い、評議員選定委員会の「新」ところが空白になっていたが 2020 年度定時評議員会で伊藤良一評議員が評議員選定委員会委員に決定したと説明があった。

平松理事から、環境委員会委員長名が空欄である質問があった。

川北専務から、環境委員会委員長は今月末まで待つて決定するが決定するまでは永井理事に環境委員長の代理を行っていただく予定。また、国体委員長は黒川委員長に変更している。資料のレース委員会をレースマネジメント委員会に変更して最終版を送付し

次回の理事会にお諮りするとの回答があった。

満場一致で承認された。

3) 指導者規程、および指導者指針の制定について

川北普及指導委員長から資料に基づき、指導者規程、および指導者指針の制定について説明があった。

資料の5ページ目6条に認定料を4,000円とすることを追記した。日本スポーツ協会からの支援だけでは賄えず収入と支出で赤字になっているので、情報提供、資料提供として4年間で4,000円とする。前回の理事会で協議事項に追加した。現時点では60団体で指導者資格のシステムがあるが、半分以上の団体が認定料を決めている。JSAFとして他団体と対比しても高くない金額に設定したと説明があった。

満場一致で承認された。

4) レースオフィサー規程の一部改正について

5) レースオフィサー制度事務処理要領の一部改正について

古屋レースマネジメント委員から資料に基づき、レースオフィサー規程の一部改正、レースオフィサー制度事務処理要領の一部改正について合わせて説明があった。

古屋委員から、前回の理事会協議から内容の修正は行っていない。従来、クラブレースオフィサーをローカルレースオフィサーとした。規定第8条の更新条件でIROセミナー、事務処理要領、写真撮影、カード交付を廃止していることから、実態に合わせ、審議をお願いすると説明があった。

満場一致で承認された。

6) ルールブックの発行形態について

増田委員長から資料に基づき、ルールブックの発行形態について説明があった。

前回の理事会での協議事項から内容について変更事項はない。アプリの導入目的はルールブック、ケースブックの普及、利便性の向上である。具体的には現状ルールブック所有人数4,500人から2,000人増を目標としている。スマートフォンの普及でアプリの多様性で所有人数の増加が予想できる。ルールブックを辞書のように使用しているが今後はスマートフォンで電子辞書のように使えアプリの利便性は非常に大きい。別紙2の収支の見通しより安く見積もりがでているとの発言があった。

満場一致で承認された。

7) 特定寄附金の募集に関わる目論見書(大学生支援) について

安藤総務委員長から資料に基づき、特定寄附金の募集に関わる目論見書(大学生支援)について説明があった。

5月30日に開催された理事会での決議から特定募金と位置付けて、募集理由等の説明があった。

黒川理事から、評議員会で川北専務から目標額を1,300万円から1,400万円にすると説明があったが、資料の金額とどちらが正しいのかとの発言があった。

川北専務から、目標額を1,400万に訂正させていただくことで審議とさせていただきたいとの回答があった。

望月理事から、大学生等の支援は会費を免除することは賛成である、支援としては、不十分で、これ以外にも出来る事をやっていきたい。ジュニア、ユースなどを含めての支援も継続に実施すべきであると発言があった。

新田理事から、寄付金を集めることは大切である。大学生の会員を維持するために経費をどのように捻出するか、ランニングコストを計上も検討するべきと発言があった。

大村常務から、維持管理コストに、特段コストがかかることはないとの発言があった。

新田理事から、寄付金の行為だけではなく何ができるか必要であるとの発言があった。

菊地理事から、多くの大会が中止になっている関係で会員になっていない人もいる。大会を開けるように支援することで、会員になるので大会開催を考えていただきたいとの発言があった。

川北専務から、セーリングを楽しめることを意見いただいているとの回答があった。

中村和哉理事から、JOCジュニアオリンピックカップ、ユース大会について8月ジュニアセーリング公示しているが、ユースは5月連休から延期、インターハイ中止になり中止された時期で8月レーザーラジアル、420大会を開催予定である。8月1～2日でジュニア大会を開催する。OP、レーザー4.7、テクノ15歳以下の小中学生を対象予定していた。安全安心な大会で準備をしているとの発言があった。

中島理事から、浜名湖で開催予定だった OP 級の東日本大会は 8 月実施から 9 月の 4 連休へシフトすることを検討しているとの発言があった。

金額が 1,400 万に訂正され満場一致で承認された。

<協議事項>

今回の理事会では協議事項はなかった。

<報告事項>

川北専務から報告事項に関しては、事前に資料を配布し目を通して頂いていると思うので、省略とするが、報告事項に関して質問があるかを各理事に問いかけたが特に質問はなかった。

1) 会員増強プロジェクトの件について

川北専務から資料に基づき、会員増強プロジェクトについて説明があった。

水域理事の方々を中心に活動を活動している。現状の会員数が減っている大きな原因は長年 JSAF 登録をしている会員が JSAF 会員更新忘れにより虫食いに状態になっている。2019 年度はこれだけで、290 人近い会員がいる。この登録忘れに対する施策を検討したい。又、高校、大学で約 1,000 人程度毎年退会している。退会してしまう会員の続投策、会費支払忘れ、競技離れの防止策を考えたい。またジュニア、高校生の新規加入促進する支援策の検討をしたい。e-Sailing を始めとする新規層の会員獲得をオンライン会議などで分担して個別に議論する予定との発言があった。

河野会長から、「会員増強プロジェクト」の件で会員の推移の分析について謝辞があった。今後、地域別、県別、ディンギー、キールボートなど艇種別の比較をしていただきたい。さらに分析を進めていただきたいとの発言があった。

川北専務から、一部地域、団体によって 10% 近くの会員が更新をしていない。今後対策案を皆さまと考えて、特に水域理事には情報共有して進めていきたいとの発言があった。

6) 国際委員会報告（推薦委員リスト）について

望月理事から資料に基づき、国際委員会報告（推薦委員リスト）について報告があった。ワールドセーリングとアジアセーリング連盟の委員推薦リスト、カウンスル推薦リスト配っている。今年ワールドセーリングとアジアセーリング連盟の委員会の人事があり、ワールドセーリングの委員の提出期限が 8 月 1 日の関係で現時点の物を配布してい

るが、1ヶ月以上あり若干の変更が発生するかもしれない、変更する場合は常任委員会へ提出して承認いただき、理事会で追って報告する。

オリンピック準備委員会と広報委員会で、JSAF と日の丸セーラーズのホームページのリニューアル、当初の予定よりも抜本的な見直しが可能になり、理事、専門委員会の方を中心にアンケートのようなものを作成するので意見をいただきたいとの発言があった。

11) その他

平松理事から、来年オリンピックに向けて6月のワールドカップに代わる国際大会を開催すると前回の理事会で聞いているが、マスコミでは、オリンピックを10月もしくは年内に開催するのか決めると報道されている。オリンピック延期または中止になっても6月のワールドカップに代わる大会を開催するのかご意見をいただきたいとの質問があった。

河野会長から、JSAF は来年オリンピックを開催すべきという立場をとる。まず選手については国内外を問わず新型コロナ対策はコントロールできる範疇にあると理解している。国内の観客についても検査を行えば問題ない。懸念事項は、海外からの観客の対応についてだが、今後の感染者の推移によるところが大きい。ほとんどの場合、テレビによる観戦になるはずで、日本のプロスポーツでも無観客という形再開している。アスリートファースト考えるとオリンピック開催は必至である。現段階においても中止は考慮していない。JOC 山下泰裕会長からも必ず東京オリンピック開催を成功させたいとの発言をお聞きしている。オリンピックがやらないから本大会を開催しないというわけではないとの回答があった。

平松理事から了承した旨、発言があった。

川北理事から、理事所信表明のみ一般の方々に公開し、役員の方々の活動が見える化をしていきたいが、意見をいただきたいと発言があった。

新田理事から、所信表明をホームページに公開するのかと質問があった。

川北専務から、会員の皆様に伝わる方法で検討しているとの回答があった。

新田理事から、所信表明の公開は賛成の上で、公開の有無を各理事へ確認することが必要ではないかとの発言があった。

望月理事から、所信表明の公開は賛成。立候補の所信でも理事挨拶でも構わないと思

う。立候補所信を修正しても、改めて書いても構わないのではないかとの意見があった。

森田理事から、所信表明の公開は賛成。個人的には内容を訂正したいとの意見があった。

橘田理事から、所信表明の公開は賛成。誰に対して所信を表明するのか、会員以外に公開するのは考慮したいとの意見があった。

菊地理事から、橘田理事の意見に賛成。可能であれば会員ページにのみ公開して欲しいとの意見があった。

新田理事から、川北専務の発想の原点はどこにあるのか、公開を会員に限定するものなのか、一般に理解していただきたいことなのかとの質問があった。

川北専務から、会員登録されている方々が、JSAF 役員が何を考えているのかわからないとの意見もいただいている。会員登録されている会員への公開で十分と考えている。今後一般に公開する必要性はあるかもしてないが、現時点では会員までの公開と考えていただいて問題ないとの回答があった。

橘田理事から、会員向けならば賛同する。理事の考えを伝えることは重要であるとの意見があった。

岩瀬理事から、会員でありながら、あまりホームページを見てなく申し訳ない。個々の理事からの意見では、会の方向性を考えて公開したほうがいい。まとまり感のない意見となる懸念があるとの意見があった。

望月理事から、会員向けのみ公開するのは検討するべきである。公益法人である以上、発信するべき方向性は会員限定では方向性は見いだせないとの発言があった。

河野会長から、現所信表明ではなく、次回から公表されるものであるとして、今回は理事の賛同いただける方のみ公表することでいいとの発言があった。

川北理事から、継続的に理事各位と意見交換していきたい。立候補の規定として総務委員会の規定で盛り込んでいただき今後も議論していきたいとの発言があった。

新理事各位から挨拶があった。

川北専務から、7月10日までに各委員会から川北専務宛に事業計画変更案を提出していただきたい。新型コロナで影響をうけそうな事業における課題や懸念事項を共有することが大切である。8月10日までに提出依頼している補正予算とは別に提出していただきたいとの説明があった。

菊地理事から、コロナ練習について関東大学では8月まで活動できないと聞いているが、練習ができるような環境にすることできないかとの質問があった。

川北専務から、関東学連に加盟している40大学のうち6月時点で練習の再開をしている大学は12大学である。大学全体では基本的部活動の活動が禁止になっているところがほとんどで、個別に対策を大学に提案し許可されたところから練習を再開している。JSAFとして練習が再開できるようなガイドラインを公表している。それぞれに大学ヨット部が大学に対して申請していくと言う方式にしてはどうかとの発言があった。

中島理事から、森国体委員長のご葬儀について全国から弔問いただいたことについて御礼があった。

2020年度通常（第1回）理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

2020年 6月 27日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 中 村 和 哉

議事録署名人 理 事 安 田 大 助

副 会 長 中 川 千 鶴 子

副 会 長 馬 場 益 弘

副 会 長 中 澤 信 夫

専務理事 川北 達也

常務理事 坂谷 定生

常務理事 富田 三和子

監事 児玉 萬平

監事 紙谷 雅子